

厚生文教常任委員会会議録

- 1 日 時 平成30年6月18日(月)
12時31分開会 12時49分閉会
- 2 会議場所 役場3階第2委員会室
- 3 出席議員 委員長：安田 薫 副委員長：北村光明
委 員：大谷昭宣、原 紀夫、奥秋康子
- 4 事務局 事務局長：佐藤秀美、主任：鵜田瑞恵
- 5 説明員 なし
- 6 議 件

(1) 所管事務調査の申し出について
(2) その他
- 7 会議録 別紙のとおり

委員長（安田 薫）：厚生文教常任委員会を開催する。

議件（1）所管事務調査の申し出について

委員長：それぞれで考えてくるということだったので、皆さんの意見をお願いしたい。
北村委員。

北村委員：私は教育関係でコミュニティスクールか、これからのICT教育。小中高と一貫でやっているところもあるかと思うが道内にあるのか。小学校からのプログラミング教育についてはどのタイミングがいいのか。

大谷委員：なかなか思いつかなかったが、ごみの広域化に向けて帯広のくりりんセンターは。あまりいい案ではないが。

奥秋委員：高齢化の中で介護関係の人材が不足しているのかなということがあって、本町の実態はどうなのかと。人材を育成するため町としてどのような手立てをしているのか。人材育成のための補助金もあっていいのかなと思う。清水町の実態とそれに向けて取り組んでいる町があるとすればその町に行き、どのような条件で補助金をつけて人材を育成しているのかということもこれから大事ではないか。そういうことも調査としてやっていけたらいいと思う。

北村委員：補助金はどこに出すと言うのか。

奥秋委員：どこにと言うのか、介護士などの人材を育成するために資格を取ってもらうなど。

委員長：今年、町でいくらか予算付けしている。介護施設となれば旭山学園、さくらさくら、松沢の郷、それら全部に向けてか。

奥秋委員：全部。どの程度人材が不足しているのか調査が可能であれば。

委員長：全部民営なので、行政として入って行けるか。

原委員：今委員長が言った町内の介護施設で、介護士がいなくて困っているという状況があり、人を集めようと努力しても全く集まらない。したがって、町の中で助成して育成をして、介護福祉士を増やしていくべきではないかということにかなげると言うことか。

奥秋委員：人材を育てていければいいなという思いがあるが、なかなか長続きしないという現実もある。

委員長：町内3施設で人材が不足しているような状況はあるのか。

奥秋委員：全体的に不足していると見受けられる。

委員長：原委員の意見は。

原委員：今回は遠くへ行く必要はない。清水町の学校教育の現状についてということで過去にもやっているが、御影・清水の4校を巡回させていただいて、校長の思いや要望を聞くということも含めてやってはどうか。しばらく学校へ行っていないと思うが。

（1～2年ほど前に調査しているとの声あり）

原委員：北村委員が言っていたコミュニティスクールの関係なども全部連動するし、校長は何年もない。2年経てば校長も代わっているのでは。校長が代われば方針も変わる。清水町は教育の四季という理念があってそれを土台にしてやっていると言っているから、それに理解を示さないような校長は採らない。それではだめ。前に清水小学校はテストの成績が良いと言っていたが今は何も言わない。テストの結果を教育委員会は知っているのだからその辺を含めて全体的にどう

なのかということも含めて、2年経っているなら大丈夫では。

佐藤局長：学校訪問の頻度が多い。ずっとやっている。毎回の常任委員会でやっている。

原委員：毎月配っている各学校の便りを皆さんも見ているかと思うが、清水中学校の校長が、今の3年生がこれから受験に向かうのだけれども、ほとんどの子どもが部活をやっている。部活をやっている子どもが四苦八苦している中で、7月8月になると部活をやめて勉強に集中しなければならないということで、その辺の捉え方をもう少し早く考えてもらわなければならないというようなことを書いていたりしているところを見ると、それが事実ならば、私はそういった認識をしているので、当然、小学校の低学年から身に付けなければならないものだけれども、そのようなところで危惧しているので提案した。

委員長：前は清水高校の振興ということでやって、私も、頻度はあるけれども、北村副委員長のコミュニティスクール、ICT教育の観点も聞けるし、中学校に行けば清水高校への進学についても聞けるかなということ、できたら原委員が言われている意見がいいかなと思うが。

佐藤局長：清水中学校は今の校長の時に行っている。2年位前に。常任委員会の任期が2年で、委員が代わるたびに毎回行っている。

委員長：いいかと思ったが、頻度が多いということで別な項目を。

北村委員のコミュニティスクールやICT教育に関しても少し時間を置いてからということ。

ごみの関係でくりりんセンターに行くか、介護施設を訪問するか、どちらがいいか。大谷委員と奥秋委員以外の方で意見は。

原委員：ごみはこれから新しく建て替えるのだけれども、各町村も清水も加入する。変わる前の施設を見るのが目的なのか、その辺はどうか。

大谷委員：どうやって処理されているかなどを見てはどうかと思った。

原委員：私が委員長の時役場の幹部と見に行ったことはある。

委員長：その時は池田の終末処理場まで行った。それもあるからどうするか。実施するとしてもくりりんセンターと終末処理場を視察するだけになるので、奥秋委員から意見のあった介護施設の人材確保について、町内の視察を兼ねてやるということでまとめてはどうか。

松沢の郷は行ったことがあったか。

奥秋委員：松沢の郷には行ってない。

委員長：項目、目的をどうするか。福祉施設の現状だけでもいいかと思うが。

奥秋委員：私はただ、施設を訪問して、ここの施設は人材不足であると言っても解決策を見つけてもらわない限りは調査にはならないので、課題があれば解決に向けて町はどうすればいいかということで今回は町内で調査をして、ほかに先進的な取り組みをしている町があれば9月から12月の間に行ければいいかと。

委員長：これはどういうふうにまとめたらいいか。

原委員：奥秋委員が言われた方向でやるということであればそれでいいのでは。

委員長：それでは、文言（タイトル）については事務局と打ち合わせをして考える。

佐藤局長：福祉の人材育成について調査するというのでいいか。

委員長：町内の3施設から調査するというので。

佐藤局長：相手のあることなので、ここで決めないでほしい。まずは町の部分を先に調査してからにしては。

委員長：では、そのような方向で事務局と相談して決定し皆さんに報告する。以上でよろしいか。

（よろしいとの声あり）

委員長：ほかに出た意見はまた次の機会もあるので、所管事務調査の申し出項目については今の項目でまとめる。「その他所管に関する事項」についても申し出る。

(2) その他

委員長 : その他で何かあるか。
(なしの声あり)

委員長 : なければ以上で委員会を終わる。
ご苦労様でした。